

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-1-4 治安対策の推進
---------	--------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	広報県民課長 中原 英樹	電話番号	0852-26-0110(代)
----------	--------------	------	-----------------

事務事業の名称	犯罪被害者支援事業
目的	(1) 対象 県民（犯罪被害者） (2) 意図 犯罪被害者等の被害を早期に回復させるとともに、再び平穏な生活を営むことができるよう支援を講ずる。
事業概要	経済的負担を軽減するため、犯罪被害者等に対し、診断書料・初診料等、遺体修復の公費負担、遺体搬送に係る給付金の支払いや一時避難場所を確保する。 精神的負担を軽減するため、犯罪被害者等に対し、カウンセリングを実施する。 犯罪被害者等の相談、直接支援体制を確立するため、民間支援団体に対し、支援を行う。 犯罪を許さない社会を醸成するため、県民に対し、被害者の声に耳を傾ける講演会を開催し、県民の理解を増進させる。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 被害者支援実施率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義 実施事件数/対象事件数	取組目標値						
		実績値	100.0					
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名 被害者支援に関する講演会等の開催率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義 開催回数/20回（警察本部3回、警察署17回）	取組目標値						
		実績値	74.1					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	4,993	5,746
うち一般財源(千円)	4,813	5,246

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○平成28年度5月末の被害者支援対象事件数は43件で、全ての事件で適正に被害者支援の必要性の有無を確認して実施している。また、公費負担等各種支援制度運用回数は7回であった。（運用回数内訳～診断書料6回、カウンセリング1回）
○平成28年度5月末の被害者支援講演会等開催～5回（警察署5回）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

①「命の授業」は既に5回実施済みであり、今後の開催計画は10回（平成28年6～平成29年2月）、その他の被害者支援講演会の開催予定が3回あり、警察署地区ネットワークの講演会の開催を2回すれば、平成28年度の目標値は達成可能であり、被害者も加害者も出さない社会づくりについてさらに理解を促進させることが期待できる。
②被害者支援の実施については、今後もすべての対象事件について適正に実施するよう、職員に対して教養等を徹底する。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

①被害者支援制度を的確に運用していくため、被害者支援に関わる支援要員の知識、技能を常に一定水準に保持していくための努力が必要である。

②困っている状況が発生している「原因」

①警察本部の被害者支援要員研修会に事件対応等で出席できない職員がいるほか、県内の支援対象事件の発生件数も少なく支援経験者が限られている。

③原因を解消するための「課題」

①専科、巡回教養を開催し、必要な知識技能の習得と向上を図る。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

①各警察署に対する巡回業務指導の機会を活用し、研修会欠席者を対象とした教養を行い、必要な知識と技能の習得を図る。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）